

高橋けいすけ 県議会報告

4号
2008年4月2日

発行人/高橋啓介県議会議員
自宅/山形市高堂1-5-20-3
☎023-643-4847
県議会山形県民クラブ執務室
☎023-630-3211

会
会
号
例
定
告
議
報
2
月
報
県

将来不安を払拭する政治の流れを



県民の要望を受ける高橋県議

常日頃のご支援に対しまして心から感謝と敬意を表します。本当に早いもので、皆様方からお力添えを頂き、県政に送って頂いて1年が経過しようとしております。2月定例議会も3月19日に閉じ、新年度予算も7年連続で減額予算となりました。まさに、県民生活を圧迫する予算となっています。昨年と比較しても121億円が減額され、東北の中でも最低の当初予算となりました。確かに、後年度の負担をさせない健全予算方針と言えますが、現在の齋藤県政に対して与党議員までもが苦言を呈している現状にあります。

また、一方国政におきましては道路特定財源を巡って与野党の攻防が展開され大変な現状になっています。それにしても、特定財源の使途のデタラメさにはあきれてしまいました。参議院選挙の与野党逆転によって、これまで隠されてきたことが明らかになった事例の一つとも言えます。

「誰のために政治が行われているのか」…本当に他人事にさせられない現状にあるのではないのでしょうか。特に、今年の4月からスタートする75歳以上の後期高齢保険の話になると「お年寄りをいらぬものにしていく」と各種の会合で話しが出てきています。加えて、若者の雇用環境の悪化や農政問題など全ての分野で制度疲労がおきていると言えます。

将来不安を払拭されるのが政治であり、そのことを基本に今後とも努力を重ねて参る所存であります。皆様方からの声をお寄せ戴ければ幸いに存じます。

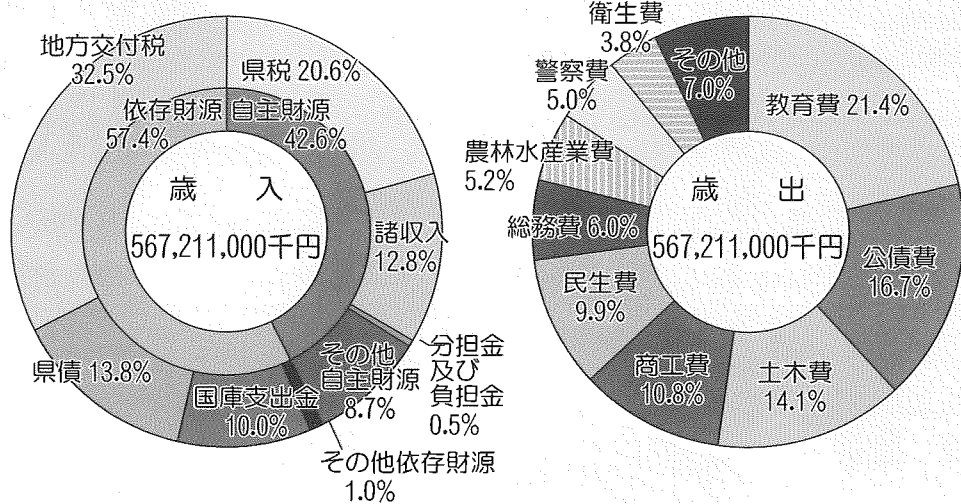
7年連続のマイナス予算

～当初予算総額5,672億円可決なる～

齋藤県政が掲げる「元気対策」として県立学校の耐震工事や橋の長寿命化工事として70億円の予算化が計られましたが、昨年と比較して対前年比で121億円の減額予算になっています。元気が出るどころか、県内の経済も疲弊して来ていると言えます。景気の回復も実感できず、県税収入にあっても27億円の収入減となっています。県民税では増えているものの、特に、落ち込みが激しいのが事業税の9億円と地方消費税の9億5千万円そして軽油取引税の8億8千万円が前年度比でマイナスで算定されております。

また、歳出面では民生費や衛生費で伸びを示していますが、農林水産費12億円・商工費32億円・土木費47億円・警察費4億円そして教育費で21億円が前年度よりマイナス予算となっています。

当初予算の概要(一般会計)



厚生文化常任委員会

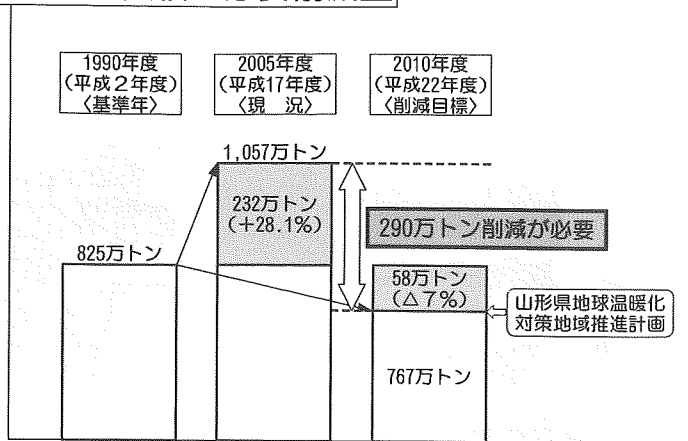
環境元年／1人削減目標1日1kgCO₂

医師確保対策や病院における看護体制なども質問させて頂きましたが、特に県民運動として取り組む地球温暖化防止の関係について報告させて頂きます。

温暖化防止の必要性は、多くの方々が理解しているものの、現実を振り返ると具体的行動がまだまだ不十分な現状ではないでしょうか。現に、P3表に示されているように基準年から見ても大幅にCO₂は増え続けています。自動車が増える背景の一つとっても、公共交通網の整備がなされないばかりか、財政難を理由に赤字路線バスは切り捨てられてきました。経済優先の生き方から、環境優先の世の中に変えるには、私達の価値判断も変えなければ根本的には変わらないのではないのでしょうか。

現在、地球温暖化防止活動推進委員の方が県内に303人おられるそうです。本気に温暖化防止をするのであれば、これでは少なすぎます。もっと多くの住民の方の

2005年度実績と必要削減量



協力が必要です。地域に根ざした取り組みが今求められていることなども含め提案もさせて頂きました。森林吸収源対策で165万トン、企業での削減目標は80万トンそして家庭での目標は45万トンの計画で進められます。特に、家庭の中でひとり「一日1kgCO₂削減」で取り組むこととなりました。ちなみに、自動車1km利用をやめれば256gの削減になるとのこと。冷

暖房の温度設定にも配慮するとか、いろいろな工夫が求められています。

3年間で、290万トン削減する取り組みがスタートしますが、次世代のためにも頑張っ取り組むをしてゆきましょう。

行財政改革・危機管理対策特別委員会

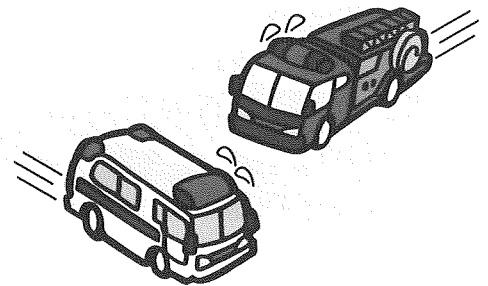
消防の広域化について

これから5年間かけて現在の消防の広域化が検討されることとなりました。県内を5ブロックにする案ですが、最上や庄内は広域化しておりますので、検討を要する所は置賜と村山地域であります。特に、心配なのは村山地域です。7市7町が一部事務組合を作って統合して、一緒に運営する案です。

理論的には理解しますが、これだけの領域を統括するのは大変なことです。長年行政区域も、北村山・西村山そして東南村山に分けてやってきました。財政的な裏付け含め本当に大丈夫なのか。

山形市の消防につきましても、救急体制が専隊化するまでかなりの時間を要した経過から議論させて頂きました。そして、しっかりした「あるべき姿」を踏まえ、それを基に整備計画をすべきであることを提起させて頂きました。

執行部としても、「本来のあるべき体制を議論していただきながら、不安の無い対応を進める」との回答でありました。今後とも検討を加えなければならない課題であると思います。



〈執行部の説明〉 市町村の境界がなくなり、救急を例に考えれば隣接している住民にとっては一番近いところにある救急車の配置が可能となり利便性が計られる。事務や通信の一体化が行われ、余人を現場に回せる。なお、人を減らしたり、現在の消防署の機能を削減しない事が基本となっている。

事故防止対策について

昨年、住民要望の多い信号機の設置についても審議させて頂きました。警察当局も減額予算の中で、来年度は今年より2基増やし15基に努力いただきました。地域の要望数からすればまだ十分とはいえませんが、努力に感謝を申し上げます。なお、右折レーンの改善等についても検討をお願い致しました。



右折車で渋滞する南沼原小前の交差点

また、高齢者の事故防止の取り組みのひとつとして「運転免許証返還制度」があります。返還した人を対象に、進んでいる県にあってはタクシー料金の1割を助成しているところも有り今後の検討をお願いさせて頂きました。

多くの皆様のご支援に感謝！

＝スペシャルオリンピックス冬季大会山形＝

去る、3月7日～9日まで山形市を会場に知的障がい者の第4回スペシャルオリンピックス冬季大会が全国のアスリートや関係者の方々を迎え3日間行われました。私も、開会式や閉会式そして市内での競技も観戦させて頂きました。本当に多くのボランティアの方々の力によって支えられた大会でもありました。また、閉会式で本当にいいお話をお聞きしました。細川名誉会長のお話しでしたが「3万人もの方々が毎年自殺する社会は世界にない。市場原理そして競争優先の社会。一人ひとりが大切にされない社会。障がい者の皆さんが一生懸命生きることが社会を変える原動力にもなる。他人を思いやる そんな社会を一緒に創っていきましょう」…まさに、この事が問われていると思われます。

さて、1年半前に二つ返事で、開催を約束した齋藤知事。県も一生懸命だと思っておりました。ところが県からの大会協力金は“ゼロ”と言う話。「ウソ」だと思ひ、所管の厚生文化常任委員会で県の対応を質しました。執行部の答弁は「ボランティアだけの協力要請があった」との事ですが、大会事務局とは食い違っていました。本当に一銭も出しておらず、全く情けない話です。確かに、多くの職員の方々がボランティアで協力していましたが、その事と財政的支援は別ではないでしょうか。もう少し思いやりのある県政であってほしいと本当に思います。

県政に対するご意見をお寄せください。

なお、所属委員会が「商工労働観光常任委員会」と「景気・雇用対策特別委員会」に変更になりました。